

## 好調庭田清美、5位に入る

### 2007ITUワールドカップ・サルフォード大会速報

#### 優勝は女子フェルナンデス(POR)、男子ゴメス(ESP)

7月29(日)、この夏のヨーロッパ2戦目にあたるITUワールドカップ・サルフォード大会がイギリスマンチェスター郊外の特設コースで開催された。

前週のキッツビューエル(オーストリア)、2週間後のティッサウィバローシュ(ハンガリー)の大会と併せ、8月末からドイツのハンブルクで開催されるITU世界選手権を占う上で、重要な大会に位置づけられている。

降雨が予想されたが、打って変わった晴天となったレース当日は、気温・水温ともに低く、ウエットスーツ着用許可となった。

午前11時30分スタートの女子は、ケリー・ラング(イギリス)が20分4秒でトップで水から上がると、バネッサ・フェルナンデス(ポルトガル)が3秒、ジョディー・スワロー(イギリス)が4秒、サラ・グロフ(アメリカ)が5秒遅れてラングを追う。

日本選手は井出樹里(トーン・日東紅茶・TEAM KEN 'S)がその2秒後につけ、庭田清美(アシックス・ザバス)が井出の8秒後、中西真知子(NTT東日本・NTT西日本)が20分38秒、関根明子(NTT東日本・NTT西日本)がその1秒後にバイクへ移った。

バイクでは、序盤から先頭集団とそれを追う集団に分かれたが、中盤には32名の大集団となった。この集団には、井出、庭田、関根、中西が入っていた。

ランでは、満を持したようにフェルナンデスが先頭に立った。それを追うのはサマンサ・ワリナー(ニュージーラン



近未来の都市を思わせるサルフォードキーからスタート(男子)



バイクで遅れながらもトップを引く上田(右)。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー



## 好調庭田清美、5位に入る

### 2007ITUワールドカップ・サルフォード大会速報

ド)。フェルナンデスはラン序盤にフリナーを引き離すと、その距離を保つようにして走り続ける。庭田清美は、2周目には5位に上がり、3位が目の前を走るところまで追い詰めた。

最後は、フェルナンデスが実力どおり、2時間2分59秒で優勝した。フェルナンデスはレース後、「スイムとランで頑張るのは計画通り。はじめてのサルフォード大会で優勝できて嬉しい」と語った。庭田は、前を追いながらも5位をキープしてフィニッシュ。「この先も頑張ります」と宣言。

午後2時スタートの男子は、チャベール・ゴメス(スペイン)がトップの18分22秒でスイムを終えると、1分以内に参加選手68名中66名がトランジションに飛び込む混戦。山本淳一(K's-Y・グリーンタワー・稲毛インター)は18分32秒の好位置でバイクへ。

バイクでは、トップ集団が50名にふくれあがり、そこから逃げたい選手がアタックをかける。しかし逃げ切れず、集団は大きいままランへ。

ランではティム・ドン(イギリス)が飛び出したがすぐにゴメスとブラッド・カーフェルト(オーストラリア)、サイモン・ウィットフィールド(カナダ)が追走。結局、ゴメスが1時間51分47秒で優勝。「きついレースだったが、ほかの3名と競れたのが勝因」とコメントした。日本選手は山本の45位が最高位。

なおこのレースの様子はフォトギャラリーでご覧になれます。



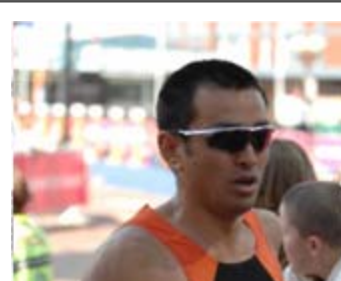
表彰台にあと一步。前を追う庭田

庭田 清美  
(アシックス・ザバス)



本当は、もう少しいい順位でフィニッシュしたかった。5位に上がった後、3位の選手が目の前にみえた。これが今の実力。この冬に37歳になるが、身体も能力も進化しているし、もちろん北京を目指す。少し休んで体調を整え、ハンブルクの世界選手権でいい成績を残したい。

山本 淳一  
(K's-Y・グリーンタワー・稲毛インター)



スイムで自分で思っていたよりいい位置で上がられて期待を持たた。バイクでは、コーナーやロータリーが多く、立ち上がりでほかの選手と競るのが大変だった。ラン勝負になることは分かっていたが、走れていなかったので仕方がない。世界選手権はロールダウンを待つ。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー

